

平成30年8月23日開催の『第1回熟議』のまとめ



テーマ『郷土学習で何を子どもたちに学ばせるか』については、町内の小中学校では、出席者が考えている郷土学習はほとんど取り組んでいることが認識された。これからの郷土学習の進め方の留意点は下記の通り。

- 現在行われている郷土学習を各種分野ごとに分けて整理し、内容を洗い直し、必要あれば見直しをする。
- 小学校6年間、中学校3年間の合計9年間で連続した郷土学習カリキュラム等を設定する。
- 地元住民と学校が役割分担をしながら、連携・協力して郷土学習を行うことが理想。地元の理解者・協力者を増やしていく。
- 郷土学習を通して、子どもたちに『町の自慢できるところ、町の誇れるところを説明できるコミュニケーション能力』を身に付けさせる。
- 町内のさまざまな団体と話し合いの場をつくって関心を持ってもらう。



平成30年度
第8号
H30/9/20
CSレター
工藤

八峰町CS運営協議会 工藤哲弥会長のお話し

コミュニティ・スクール



(CS)制度を導入して二年目になった八峰町ですが、これまで各学校毎に進めてきた「ふるさと教育」との関連をどう考えていくかも一つの課題です。

CSでは学校運営に地域がどう関わっていったらいいのか、これまでの会議で委員からいろいろ意見が出されてきました。

特に学校統合で学区域が広がったことや小・中学生がいなくなった地域も多くなっている現状で、学校と地域の結びつきが薄くなっていくのではないかとという町民の懸念を払拭するにはよい機会であると考えています。

先の会議で指導者から、八峰町のCSの委員に保育園の関係者も入っていることに触れ、小・中学校だけでなく、保育園からCSを生かした地域づくりを目指しているのは先進的な事例であるといわれました。

地域と学校のつながりをさらに深めていきながら、子どもたちの学力や豊かな感性を充実させるようお互い心がけていきましょう。

Dのあつちこつち見聞録5

D(コミュニティ・スクールディレクター)として、観て、聴いて、感心したことを紹介しています。※取材していない行事についてはごめんなさい。

八峰中祭『ハンパないって!』

午後からのなんでもあり大会では、バンド演奏やダンス、オタ芸などが披露され、若さが爆発していました。

クラスパフオーマンズ大会では、クラスごとにカラーTシャツを揃え、勝利を目指して一丸となって闘っていました。



八森小「ヘルス・ハピネスマシーン」って?

9月は就寝時刻調べで活躍中です。1、2年生は午後9時、3年生は午後9時30分、4、5、6年生は午後10時まで就寝したら、毎朝ボールを投入する仕組み。子どもたちとの約束事を定着させるために使われている手作りの優れもののマシーンでした。



峰浜小3年生の地域貢献

国道沿いで夏の風物詩になっている水沢地区のヒマワリ園。3年生が刈取り作業の手伝いに行ってきました。お礼にジュースやヒマワリの種をもらって笑顔で帰ってきました。



また、地元特産の「みねはま梨」をPRしようとのぼり6本を作成し、学校前に立てています。学校に寄った際はご覧ください。ただし、車を運転している方はよそ見しないでね。

